

ホタテガイ採苗速報

表層(1m層)の水温が上昇してきました 早めに稚貝採取を終えましょう

1 海況

8月14日時点の陸奥湾の表層(1m層)の日平均水温は、上昇してきており、いくつかの地区で25℃を超えてきています(図1)。

2 稚貝採取の注意点

稚貝は水温が23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります(図2)。表層水温が上昇してきたので、早めに稚貝採取を終えましょう。

採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜まり、異常貝率やへい死率が高くなるので、付着している稚貝から優先して使いましょう。

また、採取済みの稚貝は強い潮流によって、パールネットの中で振られて異常貝やへい死が発生する可能性があります。稚貝採取後の施設は中層以深に沈め、立ちきり(土俵)やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

なお、その他の注意事項は裏面にあります。

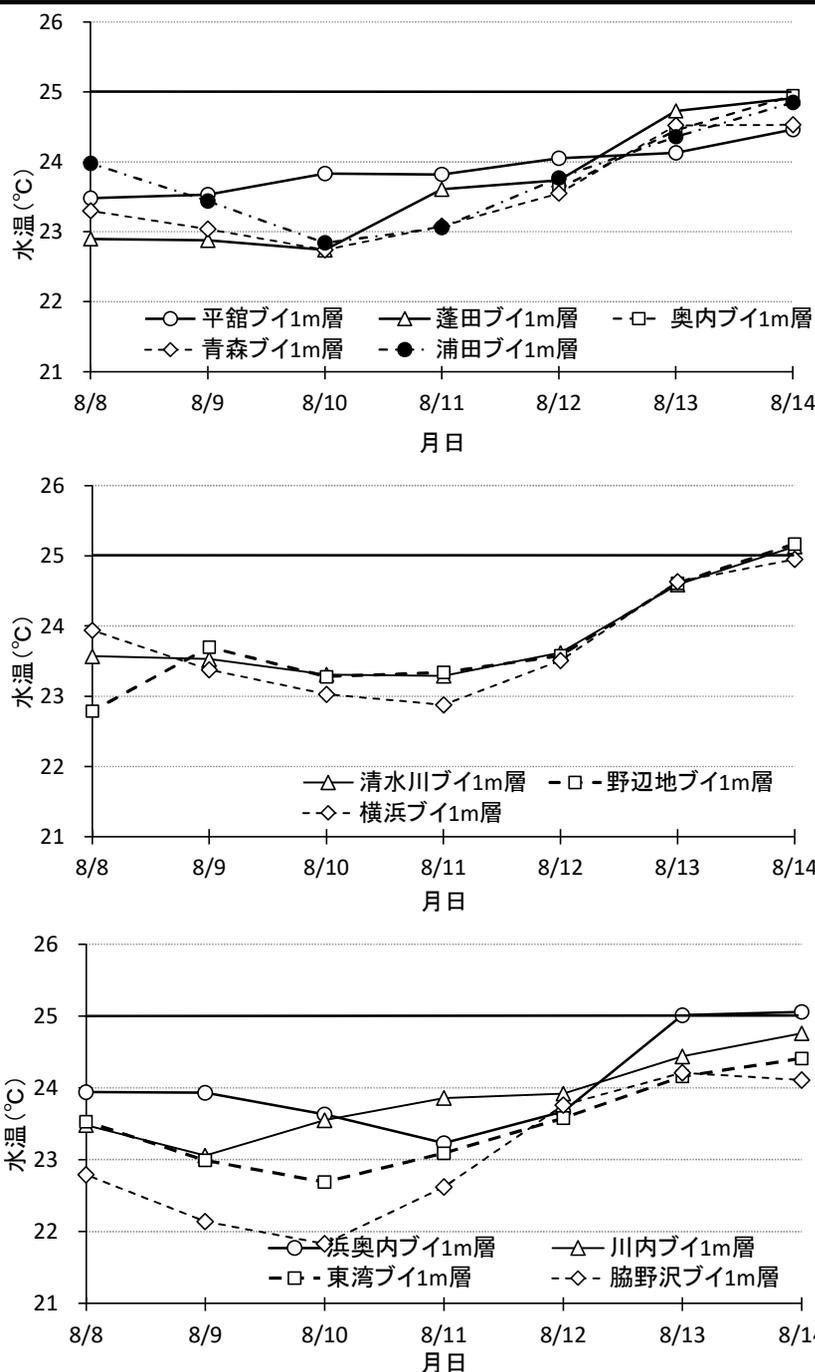


図1 1m層の海況自動観測ブイと水温観測ブイでの日平均水温の変化

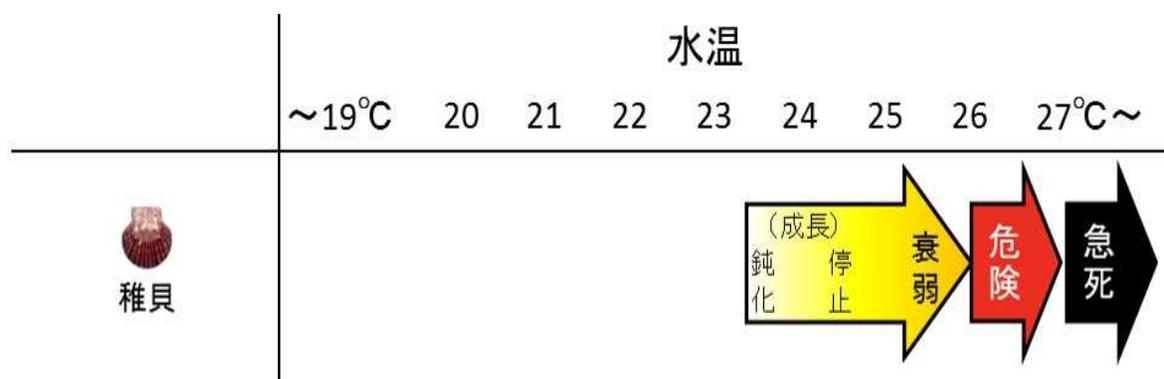


図2 ホタテガイ稚貝の成長と生残率に与える水温の影響



①



②

(その他の注意事項)

(1) 小さな稚貝も活用しましょう。

○目合いの異なるフルイを二重にして、ムラサキガイを落としましょう。

○目合いの細かいフルイに残る殻長の小さな稚貝は目合いの細かいネット（1分、1分5厘、1分8厘など）または再度採苗器に入れ、垂下しましょう。

(2) 稚貝を大切に扱きましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○タライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げ、かけ流しにしましょう。

20分でタライの海水の酸素がなくなるので、かけ流しにできない人は、頻繁に海水を交換してください。かけ流しまたは海水の交換がないと水温上昇および酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になることがあります。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（表面URL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

(3) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。分散が遅れると異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(4) 来年に向けて

○高水温や強い潮流の影響を避け、早い時期に稚貝採取するために、目合い1分、1分5厘、1分8厘など、2分未満のネットの保有率を高めましょう。